



13
1928
6

一廻りかゝ代

但し一日一夜らと見科目改る座作
け外琴うと味線か物歌ふと并
薬種柳骨柳中土産物何ぶと
川用古終付て中作

但州湯島中屋甚茶門

真々乃加波叙



町子マチの談ギヤク贅タンノ娼ゼイラ婦オカ不ヤマ惚ス地ホレ向キ

悉ツクシテ穴アナラ鴉クワシヤ母マ倍マスキ憎ニクム其ユエニノ所ホレ以ホレ求ホレ物ホレ

者モノハ適マサニ其ユエニノ所ホレ以ホレ不ホレ被ホレ物ホレ惚ホレ者ホレ也ナリ娼オヤマノ

之ニ有カン客シヤク氣キ敢オン心ホ之ホ痴リ性シヤク客カン之ニ有ニ



斯イマ文ミ生ツ人チ氣ケ藥イマス之ヲ者ハ其レ惟シ惝カ

焉アラス乎ハス。惝ア川ハス子ハス著ア有ハス。乃ハ加ハス波ハス。

亦タ惟コノ斯モノ物シ也ニ。一ヒト日ニ訪カ余ヲ徵モトム

之カ序ヲ。夫レ惝ト川ト子ト惝ト之ト與レ泥ス

俱トモニ長ス於ニ余ニ。君ニ不ミ見スマ乎ヤ。針ハリ脫ス

囊フクロヲ而シテ亦モ何ソ徵モトムル余ニ之ヲ為セシ。余ヤ也ニ無シ

根コネ無シ實ハク。惝モ自オウカラ拂ヒフ底テシス。雖ス然シ不シ

獲エ又フ已フ。則レ有ニ一ヒト言ハシ。夫レ求ム物ヲ人ト則シ

不ズ物ホレ持ス惝ハ便ス不ス惝ハ惝ハ者ハ忘ル惝ラ

之ヲ謂フ也ニ。而シテ拳コソツテ世ヲ以テ惝ヲ為ス物ト具グ矣ト。

弗^ス取^ラ焉。雖然欲^ス強^テ忘^シ者。則身
猶在^ニ平俗^ノ睥^ノ之^ク畫^ニ中^ニ也。嗚呼
睥^ヤ也。不^レ亦難^{カラ}乎。堅^カ哉。八幡
^{コシ}弱^ニ也。睥^リ川^ノ子^カ乎。睥^リ川^ノ子^カ乎。
果^シ至^ル於^ニ斯^ノ埒^ニ邪^ヤ。乃^チ有^ル真^ニ、

乃加波^{モトム}徵^ニ余^ニ序^ヲ。序^ハ則^チ是^キ限^{ナリ}也。
余^カ於^{ケル}睥^リ川^ノ子^ニ。以^テ睥^ト泥^ヲ莫^キ逆^{ナセ}。
於^ニ心^ニ者^ニ有^ル年^矣。而^{シテ}其^レ所^レ以^テ好^ム
或^シ不^レ同^{カラ}余^ノ之^レ好^ム藝^ヲ妓^也。探^サ其^レ
首^ヲ子^ノ之^レ好^ム藝^ヲ妓^也。求^ム其^レ枕^中。

居則余視其蔽膝子先察

其脛何如人心如富積何

同乎。然每講眸道未曾

陽相諛而亦未嘗陰相

排眸而不墮眸方泥而

不為泥放此所以無油也。

子素好俳諧何故乃不知

世間之指合未越耶。眸川

子幽聞之曰何言哉。



田代の川一

岩倉の村



女はのりひりかけしおかしらあす
よきやどしすれ男らありしとたのぞ
とて。飛丸院は時志ぬふお庭どち
づのさ男をのすぬらあ毎一^{おの}時^{おの}や
あふと^{おの}同^{おの}く^{おの}おん^{おの}き^{おの}る^{おの}よ^{おの}あ^{おの}が^{おの}は
ち^{おの}納^{おの}言^{おの}と^{おの}う^{おの}や^{おの}お^{おの}る^{おの}ぬ^{おの}る^{おの}さ^{おの}い^{おの}ん

佐
の
一



佐
の
一



したとやうすんざとやう。名利がらあは
うとさ。物り。まふとふけさる。佛に
解けりやとさる。まふとふけさる。佛に
も解やえ。海うんむか。何年とや
の艶信。まふとふけさる。佛に
衣は。解す。うとさ。文珠。まふとふけさる。佛に
つさ。海うり。まふとふけさる。佛に
んど。まふとふけさる。佛に

ゆとものまふとふけさる。佛に
る。まふとふけさる。佛に
世の。まふとふけさる。佛に
まふとふけさる。佛に
おとや。まふとふけさる。佛に
おとや。まふとふけさる。佛に
おとや。まふとふけさる。佛に
おとや。まふとふけさる。佛に
おとや。まふとふけさる。佛に
おとや。まふとふけさる。佛に

その一

し



おひりりも換姫かへひめづく。ちうをさけおと
もくふさ。九こり小傍こがわと誕生たうじんさせく乃
たのしみ。まゝ換所かへところお先せん生の所ところく
お役やくの布ぬ施せを封ふうのまお子こ入い。八
先せん船ふねお花はなとまゝい。指さされたの柳やなぎの皮かわ
のふ仕事しごと一ひと休やすみ揚あがりけりお姫ひめ一ひと分ぶん
けりすかど。西さい急きゆう預よ鉄てつのある名なハ味あじは
す。お梅うめおやの皮かわさんどおおと

換かへおやの店みせおら一ひとまきふ妻つまを味あじ
と俗ぞくまらるおお姫ひめ。道みち路ぢのりやこ
とよべ一ひと。薬くすり入いよとおらりおやとあれ
ハ。師しは法はふ法はふをひのりやえあり。厄やくお
湯ゆ路ぢのりや員いんめれハ。白しろ人ひとは妻つまお顔かほの
いもあま。能のう役やくおと留とどりおやとあり
て。幸さい敷しきおとあまよりやとあり。痛いたうとあま
腕うでらけりおお角かくカおおおと

